



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第四十九号〜

冬至 十二月二十一日



## 隆子女王の墓参り

年末、先祖代々の墓を掃除に行かれる方も多いことでしょう。自宅だけでなく、ご先祖の墓も掃き清めて、新年を迎えるのが日本の習わしとなっています。先日、内宮前から北西に約十五キロ離れた明和町馬之上にある「隆子女王の墓」にお参りしました。

隆子女王は醍醐天皇の孫にあたり、平安時代、第四十三代齋王に選ばれませんが、わずか三年ほどの在位で当時全国的に蔓延していた天然痘にかかり、天延二年(九七四)閏十月十七日に亡くなりました。在任中の齋王が亡くなるのは七世紀末に齋王制度が始まって以来のことです。大きな問題となったようですが、この地に葬られたとされています。

そして明治時代、小松塚とも姫塚とも呼ばれていた古墳の一つが、宮内庁により「隆子女王の墓」と指定され、管理されるようになりました。こんもりとした緑の森には玉垣が巡らされ、石の神明鳥居が立ちます。年に何回かは宮内庁の職員が見回りに来て、木を伐採したりしているそうですが、毎年、女王の命日にあたる十二月七日は地元の七十代の女性がひっそりとお参りをつけていました。鳥居の前には小さな祭壇が設けられ、水と米、塩、尾頭付きの魚、白菜、ミカンがお供えしてあります。なんでも、その方の義父がしていたので、そのまま引き継いだといえます。私たち女性五人ほどで二礼二拍手一礼をしてお参りしました。

隆子女王はまだ幼少であったとされ、母親からも京の都からも引き離されたこの地で短い一生を終えました。平安時代の齋王を今もなお偲ぶ人がいることに、心が温かくなる年の瀬となりました。皆様もよいお年をお迎え下さい。

文 千種清美

